

審議会等議事概要

令和6年度 第2回滝川市いじめ問題対策連絡協議会 議事概要

日 時	令和7年1月24日（金）10:00～11:00
開催場所	滝川市役所 3階 301・302会議室
出席者	会 長：田中教育長 委 員：菊池太一委員、日比生究委員、今野栄司委員、 山本繁委員、原修二委員、中川浩之委員、景由隆寛委員 事務局：諏佐部長、福田指導参事、佐藤課長、神馬課長補佐、小西主査、川村主事
議 事	<p>1 開 会 進行：佐藤課長</p> <p>2 教育長挨拶 田中教育長</p> <p>・昨今、全国的にいじめの認知件数は減少しておらず、むしろ増加傾向にあります。これは、積極的にいじめの認知が進んでいるためだと考えられます。市内各学校では、いじめ対策組織を通じて一件一件丁寧に対応しており、児童・生徒も主体となっていじめの未然防止や発見に取り組んでいます。また、毎年一度、絆づくり成果交流会を開催しており、委員の皆様にもご参加いただきました。滝川市教育委員会では、これまで通り、いじめの未然防止と早期発見・対応に力を入れています。しかし、近年SNSを通じたいじめが増えており、学校での発見や対応が難しくなっているのが現状です。本日の会議では、皆様からのご報告やご助言をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>3 議 題 進行：会長</p> <p>①いじめの問題に関する児童生徒の実態把握に係る調査の概要と考察について</p> <p>①について、小西主査より報告</p>

質疑応答等

委員)

- ・学校でのいじめ対応については、まず最初に事実確認を行い、その後、正確な実態把握のために調査を実施します。調査結果については、保護者にわかりやすく説明を行います。そして、被害を受けた子どもの心身の安全を最優先に考え、カウンセリングや見守りなどの支援を行います。また、加害児童・生徒およびその保護者には、再発防止に向けた指導を行います。

その後、当該児童の保護者との情報共有を行い、校内のいじめ対策組織等を通じて協力体制を築き、組織的に対応しています。基本的には未然防止を目指し、日々の教育活動の中で児童・生徒の意識や環境づくりに取り組んでいます。

委員)

- ・全国的にいじめの認知件数が大幅に増加しています。認知件数の増加に伴い、不登校の児童・生徒数の増加などの影響が生じていないか、現状についてお伺いしたいです。

事務局)

- ・不登校の児童・生徒数の現状について、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、大幅に増加しており、現在も減少の傾向は見られません。特に、中学校に進学する際に不登校となる「中1ギャップ」に起因する事例が多く報告されています。さらに、昨年度からは小学生の不登校も徐々に増加しています。

不登校の要因としては、学習の遅れや友人とのコミュニケーションに関する課題など、さまざまなものが考えられます。こうした状況を踏まえ、まずは未然防止に努めることで、児童・生徒が学校に通いやすい環境づくり目指しております。また、不登校となった児童・生徒が学校とのつながりを失わないよう、適応指導教室等を活用しながら対応を行っております。

委員)

- ・児童館への訪問を行っておりますが、その際、児童館内において児童・生徒間のトラブルが発生しているとの報告を受けております。対応にあたっては、児童館と学校の連携を強化する必要があると考えます。

また、通学時や日常生活においても、地域と学校が連携しながら児童・生徒を支えていくことが重要であると考えます。

委員)

・児童館において、児童厚生員は児童・生徒の対応に関する知識を深めていますが、対応が難しいケースも発生しております。その際には、学校と情報共有を行い、連携を図っております。

また、放課後等デイサービスの施設の活用や、児童相談所などの関係機関とも情報共有・連携を行い、適切な対応に努めております。

委員)

・いじめアンケート調査における認知件数の増加に伴い、通常の相談や児童・生徒からの通報による認知も少しずつ増加していることが、資料から明らかになりました。これは、これまでのいじめ対策の取り組みが定着し、児童・生徒の意識が変化したことで、通報につながっているものと考えられます。そのため、これは認知件数の増加であり、必ずしもいじめの発生件数自体が増加しているわけではないと認識しております。

近年、メディアを通じていじめの重大事態について報道されることが増えております。滝川市においていじめの重大事案が発生した場合、どのような対応がとられるのか、お伺いしたいです。

事務局)

・いじめの認知については、いじめアンケート調査に加え、教職員や児童・生徒自身からの報告が増加しており、これがいじめの早期発見・早期対応につながると考えております。今後もこの点の向上を目指し、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

また、いじめの重大事態への対応においては、各種関係機関との連携が重要であると認識しております。滝川市では、当協議会とは別にいじめ防止専門委員会を設置しており、大学教授、臨床心理士等の専門家によって構成されています。いじめ防止専門委員会では、専門的な知見を活かしながら、いじめ問題への適切な対応に取り組むこととしています。

委員)

・民生委員として、市内の小・中学校への学校訪問を実施しておりますが、学校の様子については昨年度と大きな変化は見られないように感じております。

いじめの認知件数は増加していますが、関係機関と連携しながら、問題解決に向けて協力して取り組んでいきたいと考えております。

委員)

- ・不登校は増加傾向にあり、その要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大により児童・生徒間の関係が希薄になっていることが考えられます。

児童・生徒同士の関係を深めることが、不登校問題の解決に向けた重要な要素であると考えます。その点において、絆づくり成果交流会の実施は大きな意義があるのではないのでしょうか。

委員)

- ・インターネット上でのいじめは、言葉でのやり取りとは異なり、証拠が確実に残るため、責任の所在が明確になるケースが多いです。また、内容によっては犯罪行為に該当する可能性もあります。

この点を踏まえ、インターネットの適切な利用について、児童・生徒への指導をより一層徹底していただきたいと考えております。

委員)

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大以降、PTAの規模が縮小されており、行事を実施する際も以前のように十分な人数が集まらず、人と人とのつながりが希薄になっていると感じています。このような状況を改善することが、いじめの抑制などにつながるのではないかと考えます。しかし、現在の組織自体が小規模化し、活動も縮小せざるを得ない状況にあります。今後、どのようにPTAの活動を維持・活性化していくかが課題となっています。

委員)

- ・保護者の年代は職場において重要な立場にあることが多く、多忙なため地域活動への参加が難しいのが実情です。私の地域でも高齢化が進んでいますが、ここ数年で若い方にも数名参加いただき、さまざまな行事に取り組んでいます。

具体的には、夏には七夕ちょうちんやラジオ体操、冬にはクリスマス会を実施し、國學院短期大学の学生の助力を受けながら活動を進めています。重要なのは、こうした若い世代の活動を町内全体に認識してもらうことです。大人が自然と挨拶や声かけを行い、児童・生徒と触れ合う機会を積極的に活用することで、地域全体で児童・生徒を見守り、支えることができると考えます。

また、全国的にコミュニティスクールの制度が広がっています。学校や児童・生徒との関わりが地域住民の生きがいにもつながるため、この制度は地域の活性化にとって非常に重要であると考えます。

いじめの認知については、児童・生徒それぞれがさまざまな特性を持っていることを前提に考える必要があります。周囲と異なる部分を排除するのではなく、受け入れる寛容な社会を家庭・学校・地域が一体となって目指していくことで、いじめの撲滅につながるのではないのでしょうか。

	<p>②その他 委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールに関して、現在、地域と学校のつながりが非常に希薄になっていると感じています。以前は学校との交流がありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、現在ではほとんど行われていません。 <p>コミュニティスクールは地域住民の参加が不可欠であり、その本来の役割を果たすためにも、地域と学校の連携を強化する取り組みを進めていただきたいと思います。</p> <p>4 連絡事項 特になし</p> <p>5 閉 会</p>
<p>会議資料</p>	<p>会議次第</p>